

# 令和7年度 第3回防災委員長会議 次第

日 時 令和8年1月13日(火) 午後6時30分～  
対 象 防災委員長(76団体)  
会 場 焼津市消防防災センター4階 多目的ホール

## 1 開 会

## 2 議 題

- (1) 令和7年度 静岡県・焼津市・藤枝市総合防災訓練について(結果報告) P.3～P.8
- (2) 令和7年度 焼津市地域防災訓練について(結果報告) P.9～P.12
- (3) 家庭内防災対策アンケートについて(結果報告) P.13～P.18
- (4) 令和7年度 焼津市水難救助訓練について P.19～P.24
- (5) 令和7年度 焼津市災害時初動訓練について P.25～P.48
- (6) 令和7年度 自主防災組織育成強化事業補助金 実績報告について P.49～P.50
- (7) 自主防災会 役員交代について P.51～P.54
- (8) その他 P.55～P.56

## 3 閉 会

### 令和7年度 焼津市災害時初動訓練関係の提出物期限

#### 1. 訓練前の提出書類(1/16(金)締切)

- ① チラシ要望書(必須資料5-1(日本語))(任意資料5-2(外国語))  
受け渡し日時: 1月30日(金)～2月6日(金)の午前9時～午後5時(土日除く)  
受け渡し場所: 消防防災センター1階受付(石津1丁目6-1)

#### 2. 訓練前の提出書類(2/9(月)締切)

- ② 必須訓練実施計画書(資料5-3)
- ③ 任意防災資機材借用要望書(資料5-4)

#### 3. 訓練後の提出書類(3/16(月)締切)

- ① 必須訓練結果報告書(資料5-8)

#### 4. その他の提出書類(1/30(金)締切)

- ① 任意令和7年度 焼津市水難救助訓練 見学者数等報告書(資料4)

#### 5. その他の提出書類(3/19(木)締切)

- ② 必須令和8年度 役員連絡先報告票(資料7)

配布資料は、1月14日(水)に市ホームページへ掲載予定です。

<https://www.city.yaizu.lg.jp/safety/bosai/bosai-info/jishu-bosai/kunren-shodo-teishutsu.html>  
へアクセスいただくか、「焼津市 災害時初動訓練 提出書類」で検索してください。

# 令和7年度 第3回防災委員長会議 配布物一覧

	内 容	資料番号	提出期限 ★は必須
議 題(1)	令和7年度 静岡県・焼津市・藤枝市総合防災訓練について(結果報告)	資料1	
議 題(2)	令和7年度 焼津市地域防災訓練について(結果報告)	資料2	
議 題(3)	家庭内防災対策アンケートについて(結果報告)	資料3	
議題(4)	令和7年度 焼津市水難救助訓練(令和8年3月7日)	資料4	
	・見学者数等報告書		1/30(金)
議 題(5)	令和7年度 焼津市災害時初動訓練について(令和8年3月8日)	資料5	
	・令和7年度 焼津市災害時初動訓練の実施について(依頼)		
	・令和7年度 焼津市自主防災組織活動指針		
	・令和7年度 焼津市災害時初動訓練 実施計画		
	・同報無線放送スケジュール		
	・チラシ(日本語)要望書	資料5-1	★1/16(金)
	・チラシ(外国語)要望書	資料5-2	1/16(金)
	A:【訓練用】「わが家の安否確認カード」	チラシA	
	B: 訓練参加証明書(児童・生徒用)	チラシB	
	C: 同報無線が聞こえないときどうする?	チラシC	
	D: 災害時は安否確認が重要です!! ～大切な人との再会のために～	チラシD	
	E: もしもの備えが命を守る!(表面) 災害時のトイレ問題は深刻です!(裏面)	チラシE	
	・令和7年度 焼津市災害時初動訓練 実施計画書	資料5-3	★2/9(月)
	・防災資機材借用要望書	資料5-4	2/9(月)
	・消防団員派遣依頼書	資料5-5	
	・「わが家の安否確認カード」集計用紙【任意様式】 (組長・町内会長・基地用)	資料5-6	
	・災害時情報記録用紙(参加者): 自主防災会本部用	資料5-7	
	・令和7年度 焼津市災害時初動訓練 結果報告書	資料5-8	★3/16(月)
議 題(6)	令和7年度自主防災組織育成事業補助金について	資料6	
議 題(7)	自主防災会内の役員交代について	資料7	
	・令和8年度役員連絡報告書		★3/19(木)
その他	令和7年度静岡県原子力防災訓練の視察参加について	資料8	

## 令和 7 年度 静岡県・焼津市・藤枝市総合防災訓練 実施結果について

防災部 地域防災課

1. 概 要 静岡県では、大規模な地震災害に備え、昭和 54 年より市町と共同で総合防災訓練を実施している。令和 7 年度は、焼津市・藤枝市の共同で実施。焼津市では、市内全域 14 会場に自衛隊・警察・消防などの災害対応機関が参加。倒壊家屋、土砂被害家屋からの救出・救助訓練や、海底地形計測など、最新技術を使った航路啓開訓練といった地域の特性に合わせた対応を確認するとともに、各機関との連携強化を図った。
2. 日 程 令和 7 年 10 月 19 日（日）午前 8 時～正午
3. 場 所 市内 14 会場、26 訓練を実施
4. 訓練内容 救出・救助訓練、航路啓開訓練、避難所開設・運営訓練など
5. 参加機関 自衛隊・警察・消防、ライフライン機関、地元建設業界・医療機関・民間事業所・福祉施設・協定事業者など 71 団体  

計 1,042 名
6. 成果等
  - ①焼津漁港（航路啓開訓練）について
  - ②大井川防災広場（救出・救助、交通対策訓練）について
  - ③大富小学校（避難所開設・運営訓練）について

「令和 7 年度静岡県・焼津市・藤枝市総合防災訓練の成果について」参照

## 令和 7 年度静岡県・焼津市・藤枝市総合防災訓練の成果について

## ①焼津漁港（航路啓開訓練）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海底データを焼津漁港管理事務所や、焼津漁協等の関係機関と共有することで、航路啓開作業の迅速化が図られる。</li> <li>・最新技術を用いた海底の可視化を、メディアや関係者に知ってもらうことができた。</li> <li>・ヘリの救出・救助と、海上輸送の訓練会場は、市民の来場を可能としたため、より広範囲に活動内容を周知できた。</li> <li>・発災前の焼津漁港の海底データを取得しておけば、発災前後の地形変化等の比較により、速やかに被害状況が分かるため、航路啓開において有効であることを確認できた。</li> </ul>
----	---

## ②大井川防災広場（救出・救助、交通対策訓練）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路啓開、救出・救助、交通対策訓練及び展示訓練といった様々な機関や団体と連携した訓練を実施できた。</li> <li>・道路啓開では、道路通行上で想定される被害に対応した訓練が実施できた。また、橋梁の段差を解消した場所を、その後の救出・救助訓練で使用し、より実践的な訓練を実施できた。</li> <li>・実物の車両や、信号機などを使用し、より実災害に近い状況下での訓練となった。</li> <li>・官民合わせて 11 の事業者が展示訓練に参加。防災広場の広さを活かし、大型の車両や応急仮設住宅など、大規模な展示物を設置できた。</li> </ul>
----	--

## ③大富小学校（避難所開設・運営訓練）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体の参加を通じて、避難所運営に関する取り組みに加え、地域住民の避難所受援体制への理解を深める機会を提供することができた。</li> <li>・静岡 JRAT、静岡 JWAT、静栄 DAT などの支援団体の役割に関する説明が行われ、これら団体が災害時にどのような支援を提供しているか、また、それら支援を円滑に受け入れるための必要な体制についても学ぶことができた。さらに、応急給水車や自衛隊をはじめとした支援車両の駐車スペースの確保の重要性について、地域住民に共有することができた点も成果のひとつと考えられる。</li> <li>・資機材運用訓練では、簡易トイレやラップ式トイレを設営し、参加者には、凝固剤を使い、尿に見立てた水を固めてもらった。体験を通じて、避難所におけるトイレの適切な運用とその重要性について、理解を深める機会となった。また、災害時の衛生環境の確保や、避難所運営におけるトイレ設備の適正な管理を広く周知することができた。</li> </ul>
----	--

焼 3 - 1 救出・救助訓練  
焼津漁港



救出・救助の様子①

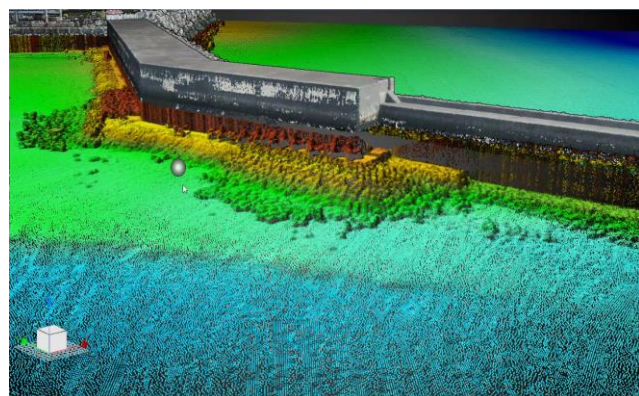


救出・救助の様子②

焼 3 - 2 航路啓開訓練  
焼津漁港



海底データ説明



焼津漁港オルソ画像



船による測量



ドローンによる測量



焼 5 道路啓開、救出・救助訓練  
大井川防災広場



橋梁段差の解消

焼 5 交通対策、展示訓練  
大井川防災広場



信号復旧作業



倒壊家屋からの救出・救助（自衛隊）



車輛の多重事故からの救出・救助



災害救助犬による要救助者の搜索



事故車両の撤去



倒壊家屋からの救出・救助（志太消防本部）



展示訓練



焼 9 - 1 避難所開設・運営訓練  
大富小学校



受付の様子



栄養士会による講座



陸上自衛隊による炊き出し①



JRAT（日本災害リハビリテーション支援）による講座



陸上自衛隊によるカレー



防災部による簡易トイレの説明



WOTA（水循環式シャワー）による説明



NTTドコモ㈱の展示



## 焼 9 - 2 応急給水訓練 大富小学校



地元住民への応急給水説明

## 焼 9 - 3 ペット同行避難訓練 大富小学校



ペット同行避難に関する啓発パネル



応急給水訓練の設営



啓発パネルの説明



給水の様子①



ペット避難スペースの設営



給水の様子②



ペット避難スペース完成



## 令和 7 年度 焼津市地域防災訓練実施結果について

防災部 地域防災課

1. 目的 地震発生を想定し、市民は地震の身を守るための行動並びに避難行動を身につけることを、自主防災会は、安否確認、情報伝達並びに避難所開設の対応力向上、各自主防災会内で計画した実動訓練の実施を目的とする。

2. 実施主体 市内 76 自主防災会

3. 日 時 令和 7 年 12 月 7 日（日）午前 9 時 00 分から正午

4. 参加人員 69,582 人（令和 6 年度 70,897 人・△1,315 人）

【参考 児童・生徒参加者数】

小学生：3,430 人（令和 6 年度 3,649 人）

中学生：2,174 人（令和 6 年度 2,175 人）

高校生：2,109 人（令和 6 年度 2,169 人）

5. 内 容

（1）情報伝達訓練

（2）「令和 7 年度 焼津市地域防災訓練実施計画」に基づく各自主防災会の訓練

【内容】

家庭内 事前対策	持出品 確認	資機材 点検	資機材 取り扱い	AED	応急	搬送	初期 消火	テント 設営	炊出	避難所開 設・立上等
2	12	16	22	12	7	9	31	9	25	10
2.7%	16.0%	21.3%	29.3%	16.0%	9.3%	12.0%	41.3%	12.0%	33.3%	13.3%

（3）訓練支援チームの派遣

【内容】

支援チーム	実施機関	体制	派遣先	実施内容（概要）
地震体験車	地域防災課	1 隊	2 箇所	地震体験を通じた防災啓発
給水体験	上下水道部	1 隊	1 箇所	給水車による応急給水体験
出前講座	地域防災課	1 隊	2 箇所	石川県復興支援派遣報告
	地域防災課	1 隊	1 箇所	備蓄、家庭内対策について
	消防団女性消防隊	1 隊	1 箇所	災害時の非常食、トイレづくりについて

## 5. 意見・課題等

## (1) 訓練全体について

- ・訓練実施を踏まえて、今一度避難経路や、非常持出品、備蓄品の確認を進めていきたい。
- ・避難所の立上訓練は規定の確認訓練であるが、不備、不足等改善点も多く見られた。役割分担や、具体的な行動がはっきりしないため、これからの防災会議で講座を計画したい。
- ・司会進行の際、アナウンスの声が通らなかったことへの反省と、改善策の検討。
- ・ペット同行避難の際の訓練会場での対応方法を検討。
- ・人数の多い町内会では、避難時に道路に広がって混雑するため、車などの通行の妨げになる。交通整理要員を配置し誘導。
- ・マンネリ化は避けられないか。
- ・本部の設営も手際よく進み、所要時間も前回より短縮できた。
- ・グループラインを使い、情報の共有化、迅速化が進んでいる組もある。
- ・今回は、訓練前の集合通知をせず、三々五々集合した消防団、自主防災救助隊、防災委員が自主的に各組長を迎える準備をした。2回目なので要領よく活動ができた。
- ・経路の再確認をしながら避難できたが、誘導時の緊張感が希薄であるように感じた。
- ・風向きによって同報無線が聞こえづらい。
- ・一時避難場所・安否確認場所・シェイクアウト訓練等、地区や近所の実情に合わせた内容で、用語、場所、方法の理解を一層向上させる必要がある。

## (2) 参加者について

- ・インフルエンザの流行で、思っていたより参加人数が少なかった。
- ・訓練後半のパトロールで、参加されていないお宅を巡回し、声掛けをしながら「安否確認カード」の確認を実施。今後の防災訓練参加への意識向上へと繋げていく。
- ・参加者が真剣に説明に耳を傾け講習を受けてくれた。
- ・アパート等、賃貸住宅の住人にも、積極的な訓練参加の呼びかけを行いたい。
- ・回覧板での訓練内容の周知が重要。
- ・テレビ等で災害は目にしている、実際に災害を体験したことがなく、どうしても他人事の訓練となっている。事前の備蓄や自宅の安全確保など、改めて自分の命をどう守るかを真剣に考えてほしい。
- ・主催者と参加者の訓練に対する考え方に相違が見られるが、何度も訓練を体験してもらい、防災への知識と、各町内会の住民とのコミュニケーションを通じた協力関係の醸成により、いざという時にお互いに助け合えるような体制づくりをしていきたい。
- ・年々低下していく防災意識への今後の対応策の検討。
- ・近所付き合いが減り、近所の状況が分かりづらい。特に、転居してきた世帯の状況が分かりづらい。
- ・訓練への意識変化が見られた。近隣で発生した台風第 15 号の影響もあると思われる。
- ・参加者は似た顔ぶれが多い。
- ・緊張感の薄れが見られる。訓練は繰り返しが重要ではあるが、その反面緊張感の薄れが危惧される。
- ・最近では行事もなく、近所付き合いも減り、近隣の家族・家庭状況が分からない。新しく転居してきた世帯は、さらに分からず交流のきっかけもない。
- ・参加者の訓練意識を高めたい。なんとなく・仕方なく参加している雰囲気が感じられる。訓練内容等を工夫し、参加者の主体的な活動を目指したい。



## (3) 小学生・中学生について

- ・ 地元中学校へ依頼し、訓練参加を呼び掛ける校内放送を実施した。
- ・ 中学生と発電機の操作訓練をする際は、事前のマニュアル作成が必要か。
- ・ 学齢期の参加者数が少ない。学校だけでなく地域全体での啓発も必要と思われる。
- ・ 参加者が、昨年より若干減った（特に高校生以下の子供が10人減）。
- ・ レジ袋で作る三角巾と簡易担架を児童に体験してもらった。参加を通じて興味と意欲が増すのではないか。
- ・ 次世代を担う小・中・高校生の数は減っていき、難しさを感じる。

## (4) 高齢者について

- ・ 避難場所や安否確認場所が遠方の高齢者の移動は大変。時間もかかる。
- ・ 地区内の高齢化率が高く、介護等で自宅を離れて訓練できない住民がいる。
- ・ 若い世代（30～40代）の参加が少なく、どのような訓練にすれば参加するか思考を要する。
- ・ 高齢化の進行が目立つ（高齢の夫婦、独居、実子・親戚・知人も遠方在住の世帯の増加等）。組長も組員も高齢である場合、こちらの意図が十分伝わっているか、相手も理解しているか、判然としない部分がある。

## (5) 外国人について

- ・ 以前より多くの外国人世帯が参加した。外国語版の防災関係チラシを継続して配布しており、防災意識や訓練への定着度が高まったと思われる。
- ・ 訓練と同じ時間帯に外国人の集会があった。
- ・ 外国人の住民参加者が多く感じた。各訓練にも積極的に参加していた。
- ・ 外国人の居住者が増えているが、訓練に参加しない世帯が多い。

## (6) 安否確認について

- ・ 同一箇所には安否確認場所が複合したが、町内会毎に分かるようにした。町内会毎の集計作業は、町内会長と防災委員との協力により円滑にできた。
- ・ 安否確認カードの持参、記入方法の定着が必要。
- ・ 世帯数の多い地区等は、安否確認カードの集計に時間がかかる。
- ・ 安否確認カードの記入方法チラシの配布により、円滑に安否確認、集計ができた。
- ・ 個人情報理由に安否確認カードの提出を拒否する世帯があった。
- ・ 無線を使った安否確認情報の報告が円滑にできない様子が見受けられた。
- ・ 安否確認の集計に時間を要したが、実際の災害発生時はより混乱するのではないかと不安。

## (7) 役員、人員配置について

- ・ OB 役員の協力も得て、円滑に訓練を進められた。
- ・ 自主防災役員交代後のフォローアップ体制の確立が必要。
- ・ 女性の防災委員がいると、資機材体験等で、女性の参加者も加わりやすいのではないか。
- ・ 総合防災訓練時より、迅速に行動できた。
- ・ 組長の集合に時間がかかり、その後の行動に影響がある。
- ・ 今回は避難誘導、消火、避難生活担当の人数を絞ったことで、各人が前回より責任感を持って訓練に取り組み、円滑に行動できた。

## (8) 資機材について

- ・ワンタッチテント、段ボールベッド、トイレ用テント等の体験は、今後の参考になった。
- ・簡易トイレの凝固剤が固まっており、使用できなかった。
- ・倉庫内の資機材点検を行った際、経年でそのままの使用が難しい資機材、更新が必要な備蓄食料が見つかった。
- ・可搬ポンプは月に1回動作点検しているが、訓練当日は不具合で消火訓練をできなかった。
- ・津波の威力を体感できる資機材がないか。
- ・現在の投光器は重く、設置も危険を伴うため軽量で設置し易いものを検討したい。
- ・毎月可搬ポンプの動作点検をしているが、人が変わると円滑に始動できなかった。

## (9) 各地域での訓練について

- ・災害時ワンタッチトイレの組み立てから、凝固剤で水を固めるところまで実施した。大分の山林火災のニュースで、有事のトイレに関する報道もあり、関心度は高かった様子。
- ・各町内会で、世帯対抗のバケツリレーを行った。近隣住民との親しみあいや、協力しあう気持ちの情勢に繋がった。
- ・自動体外式除細動器（AED）、胸骨圧迫による心肺蘇生法の訓練を通じて参加者の誰かの命を助ける大切さ、意識向上が図られた。
- ・消火訓練では水消火器と的を活用し、楽しみながらの訓練となり参加者も多かった。
- ・消防団員による指導（初期消火、AED）を実施し、参加者の反応は良かった。
- ・発災時のトイレ問題の周知のため、簡易トイレの使用体験を実施したところ、参加者の反応が良かった。
- ・出前講座を初めて取り入れたが、参加者が熱心に耳を傾けていて良かった。
- ・ロープワーク訓練の説明員の増員。救命救急訓練における参加者への見える化を検討。
- ・電力会社の協力により、「感震ブレーカーの説明・牧之原竜巻被害のモニター画面での状況説明・カラスの巣による停電被害」について説明を行った。土嚢・ブルーシートによる、水止め訓練を行った。
- ・新たに導入した可搬ポンプの紹介と、水消火器訓練、炊き出し訓練を実施。
- ・アルファ化米の炊き出しや簡易テント、段ボールベッドの体験が良かった。引き続き、体験型の訓練を取り入れたい。
- ・市水道局による給水車の派遣あり（訓練支援チーム）。日頃給水車を見ることもないが、今回、仕組みや給水方法、また、給水された水を持ち帰る際の注意点や最適な容器などを説明してもらい、非常に参考になった。
- ・簡易トイレ、トイレ用テントを設置してみたが、トイレに対する関心は高いように見えた。
- ・アルファ化米を水で調理したが、美味しく炊き上がった。
- ・アルファ化米で使うためのお湯の準備に時間がかかった。使う容器等のサイズを変更して、次回は臨みたい。
- ・炊き出し訓練では、炊き出し機器を新導入し時短で手際よく訓練が進行した。
- ・炊き出しのほか、賞味期限間近の保存用ビスケットを分けた。
- ・アルファ化米の炊き出し、梱包に時間がかかる（1時間）。



1. 調査の目的

本調査は、地震災害の発生に備え、市民の皆様の家庭内での防災対策の取組状況を把握することを目的としています。

2. 調査期間

令和7年6月1日～令和7年9月30日（火）

3. 調査対象

市内各世帯

4. 調査方法

広報やいづ及び焼津市ホームページ、焼津市公式 LINE による周知  
御希望いただいた自主防災会様への回答用紙の配布 等

5. 回答方法

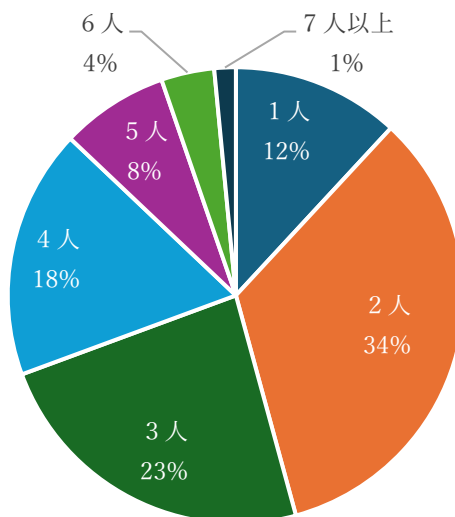
回答用紙への回答及び WEB 回答の併用

6. 回答件数

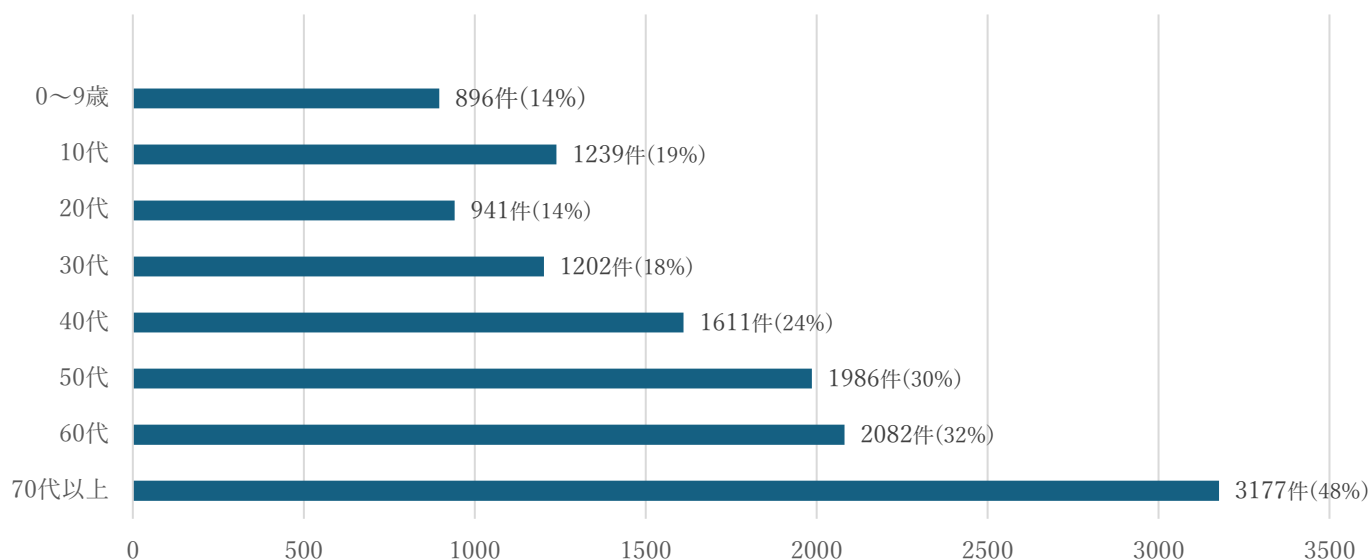
6 5 7 6 件（世帯）

Q2. 世帯の人数を教えてください

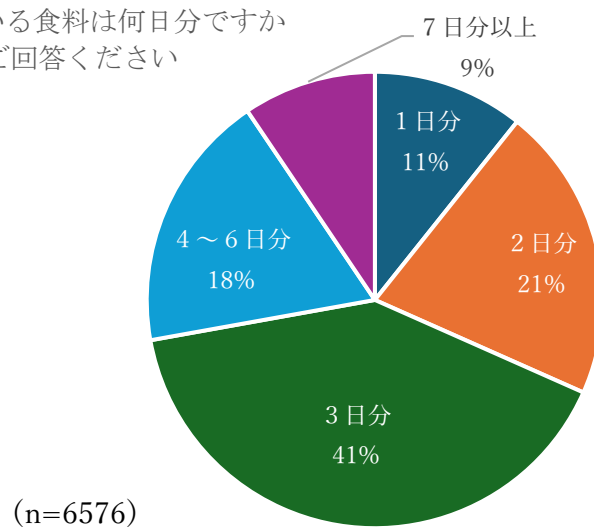
合計人数：約 19285 人  
(7 人以上の世帯を 7 人としてカウントしています)



Q3. 世帯員の年齢層について教えてください (例：夫婦が2人が40代、子ども2人が10代の世帯の場合、10代と40代を選択してください)

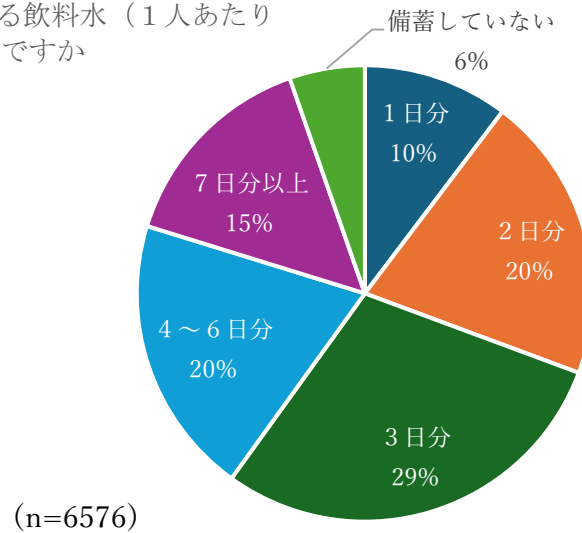


Q4. ご自宅で備蓄している食料は何日分ですか  
※平常時の食料も含めてご回答ください

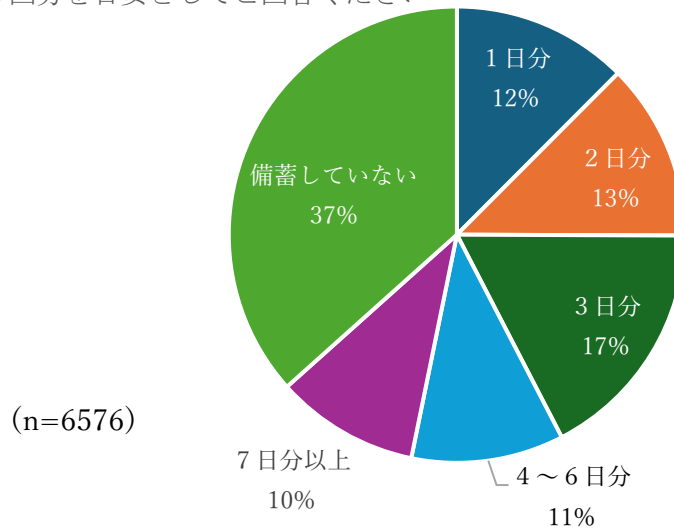




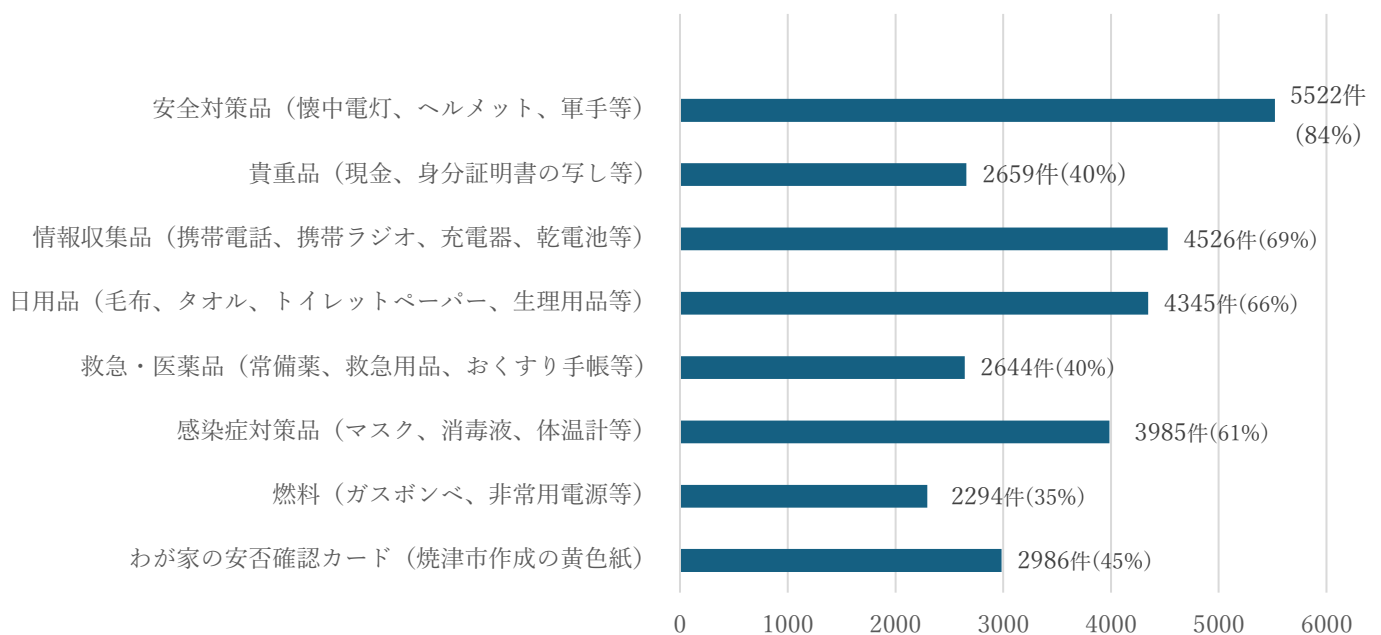
Q5. ご自宅で備蓄している飲料水（1人あたり1日3リットル）は何日分ですか



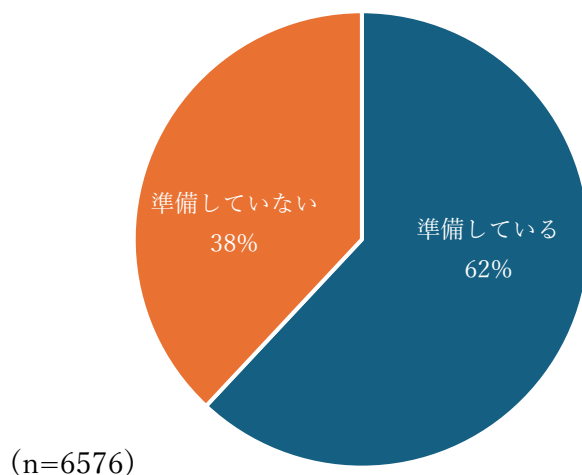
Q6. ご自宅が断水している際も使用できる災害用トイレを何日分備蓄していますか  
※1人あたり1日5回分を目安としてご回答ください



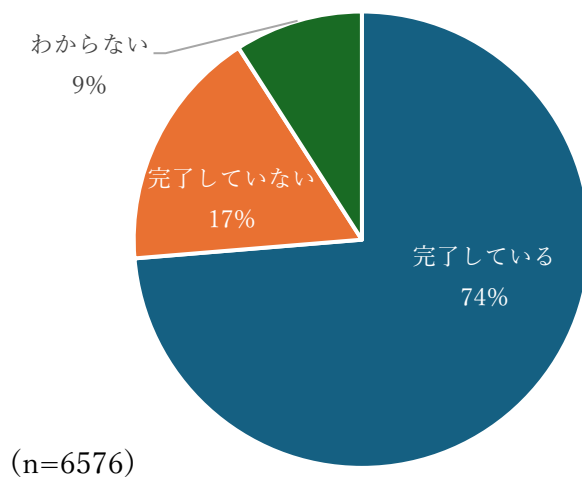
Q7. 食料、飲料水、災害用トイレ以外に備蓄しているものを教えてください（複数回答可）



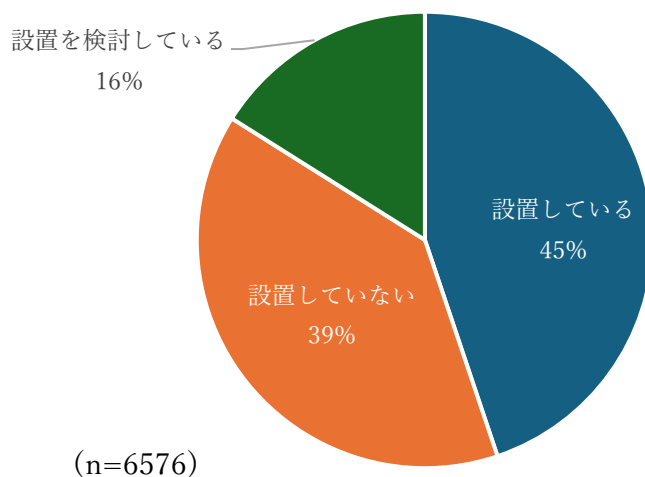
Q8. 避難するときいつでも持ち出せるよう、非常持ち出し品を詰めたバッグを準備していますか



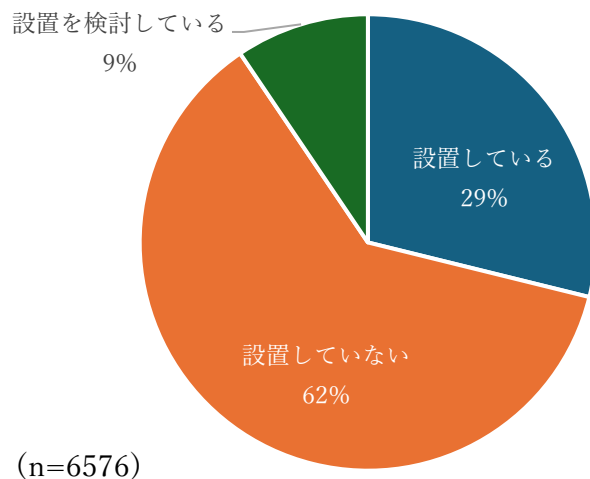
Q9. ご自宅の耐震補強は完了していますか（1981年（昭和56年）5月31日以前に建築された木造住宅が対象になります。対象外の住宅にお住まいの方は「完了している」を選択してください。）



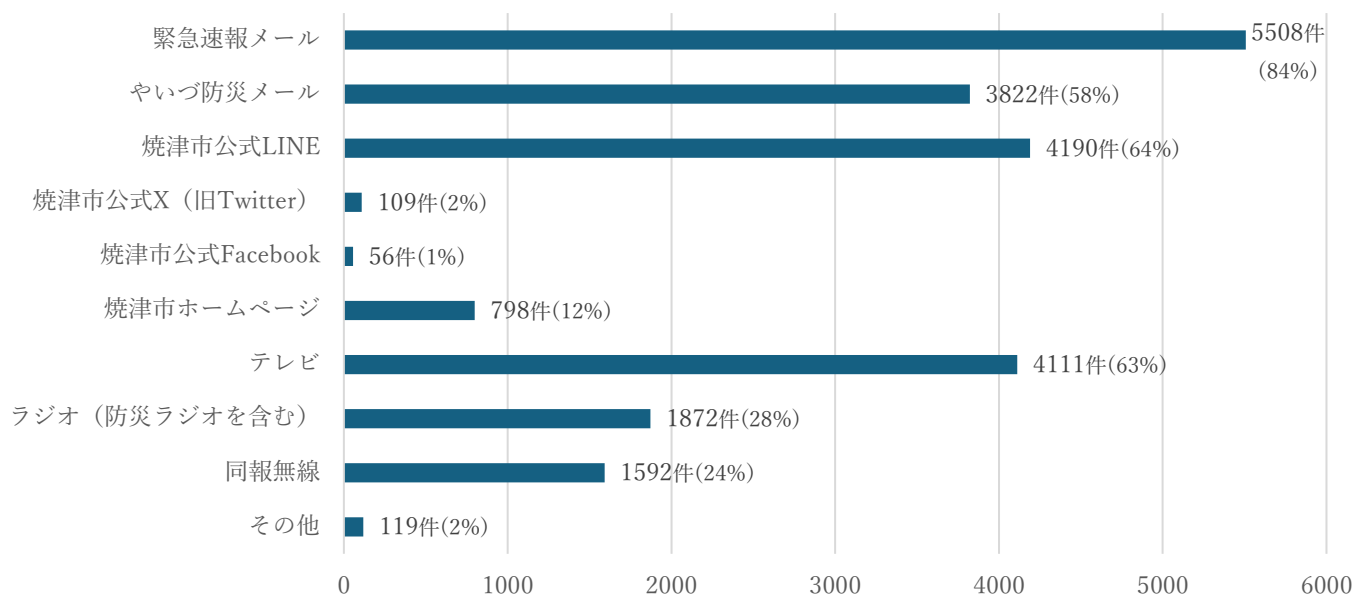
Q10. ご自宅に家具転倒防止器具（つっぱり棒、転倒防止金具、ガラスの飛散防止フィルム等を設置していますか



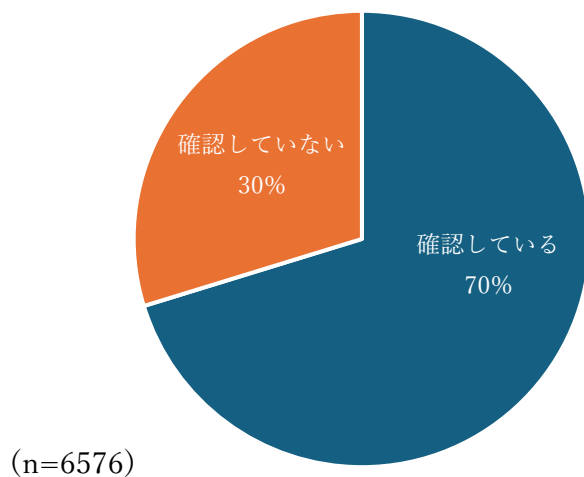
Q1 1. ご自宅に感震ブレーカー※を設置していますか（※感震ブレーカー・・・地震を感知すると、分電盤のブレーカーを強制遮断して電源を止める装置のこと。設置することで通電火災を予防できます。）



Q1 2. 災害情報を入手するための手段を教えてください

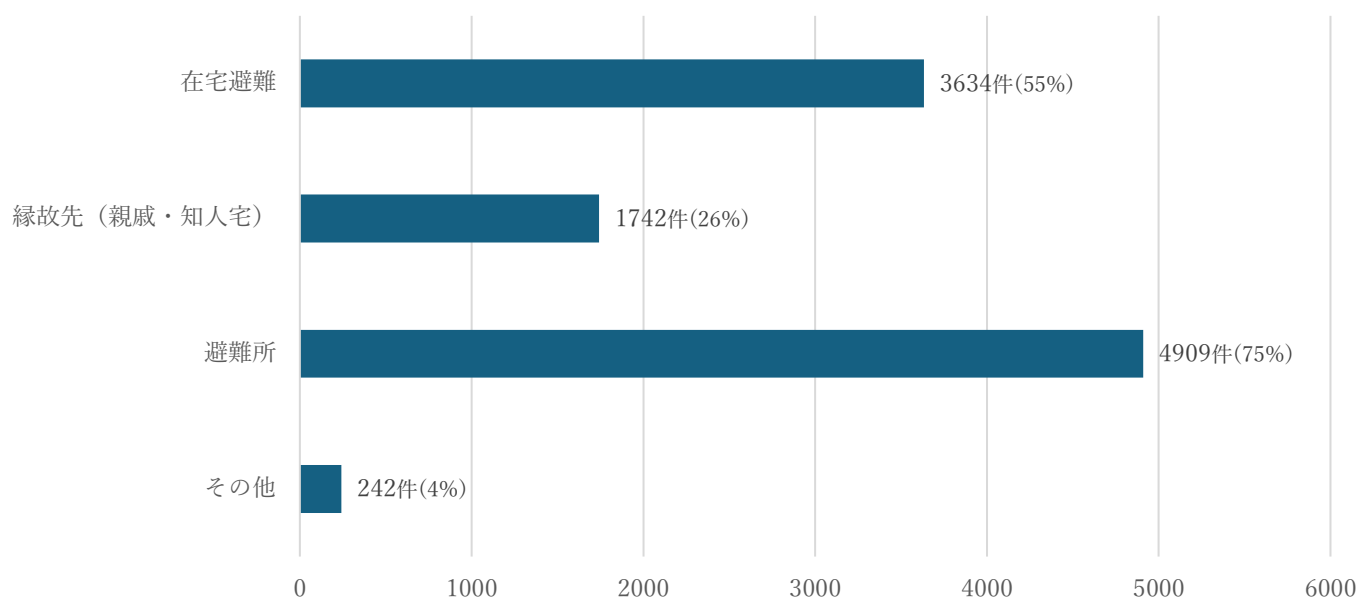


Q1 3. ハザードマップを使用して自宅周辺の災害リスク (地震津波、洪水、土砂災害)を確認していますか





Q14. 発災時の避難先を決めていますか（ご自宅の被災状況に応じて避難先の選択肢が変わると思われるので、検討している選択肢を複数回答していただいて構いません）



焼 18-314 号  
令和 8 年 1 月 13 日

自主防災会長 各位

焼津市長 中野 弘道  
(防災部地域防災課)

「水難救助訓練」のご視察及び、駐車許可証の配布について（ご案内）

平素より当市の防災行政につきましては、多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、令和 7 年度焼津市水難救助訓練を下記のとおり実施いたします。視察を希望される自主防災会は別紙様式に見学者数及び駐車許可証利用枚数をご記入の上、下記期日までにご提出くださいますようお願いいたします。

### 記

- 1 訓練日時 令和 8 年 3 月 7 日（土）9 時 30 分～11 時 00 分
- 2 訓練会場 大井川港公共北岸壁等 ※別紙「訓練本部配置図」参照
- 3 送付書類 (1) 本案内  
(2) 見学者数等報告書  
(3) 令和 7 年度焼津市水難救助訓練概要  
(4) 訓練イメージ図  
(5) 訓練会場配置図
- 4 提出期限 令和 8 年 1 月 30 日（金）
- 5 提出方法 別紙様式に記入のうえ、直接お持ちいただくか、下記問合先へ郵送、FAX、メール又はお電話にて報告してください。
- 6 留意事項 (1) 本案内は動員の依頼ではありません。希望する自主防災会のみご提出願います。（希望しない場合は提出不要です。）  
(2) 集計が完了しましたら、各自主防災会長様あてに駐車許可証を発送させていただきます。  
(3) 駐車許可証は 1 自主防災会あたり 3 枚までとさせていただきます。  
(4) 駐車許可証は四輪自動車を対象としております。徒歩・自転車・自動二輪などでお越しいただく場合は、様式の備考欄にその旨ご記入願います。  
(5) 気象状況により中止となる場合があります。中止する場合は、「見学者数等報告書」に記載された代表者にご連絡いたします。

#### 《問合先》

焼津市 防災部 地域防災課 島田・鈴木  
〒425-0041 焼津市石津 1-6-1（焼津市消防防災センター2 階）  
TEL：623-2554／FAX：625-0132  
メール：tiikibousai@city.yaizu.lg.jp

令和7年度 焼津市水難救助訓練 見学者数等報告書

代表者	役職
-----	----

連絡先

[illegible]

車両台数（駐車許可証必要数）	台（枚）
----------------	------

焼津第〇 自主防災会

代表者	〇〇〇〇	役職	自主防災会長
-----	------	----	--------

連絡先 623-2554

視察者氏名	地区	役職
〇〇	焼津第〇自主防災会	自主防災会長
〇〇	同上	防災委員長
〇〇	同上	自主防救助隊長
〇〇	同上	町内会長
〇〇	同上	防災担当
備考欄		
〇〇は自動二輪車で行く予定。		

車両台数（駐車許可証必要枚数）	2 台（枚）
-----------------	--------

## 令和7年度 焼津市水難救助訓練 概要（案）

- 1 実施日時 令和8年3月7日（土）9時30分から11時00分
- 2 実施場所 大井川港（港内水域、岸壁、野積場）  
津波避難タワー（ポートサイド飯淵タワー）
- 3 参加機関 焼津市、焼津市消防団、志太消防本部、清水海上保安部、静岡県消防防災航空隊
- 4 訓練内容
  - 訓練① 9時30分 ドローンによる津波避難の呼びかけ、無人航空機による情報収集活動  
担当：焼津市防災航空隊（BLUE SEAGULLS）
  - 訓練② 9時35分 無人航空機による情報収集活動、海面の要救助者の発見・救助連携  
担当：焼津市消防団ドローン隊（SKY SHOOT）
  - 訓練③ 9時45分 水上バイクによる海面の要救助者の救出  
担当：志太消防本部
  - 訓練④ 9時55分 静岡県防災ヘリコプターによる救出
    - ・津波救命艇からの救出
    - ・津波避難タワーからの救出担当：静岡県消防防災航空隊
  - 訓練⑤ 10時40分 清水海上保安部所属船による救出
    - ・津波救命艇からの救出担当：清水海上保安部
- 5 中止基準
  - （1）南海トラフ地震臨時情報が発表された場合
  - （2）市内に震度4以上の地震及び県内に震度5弱以上の地震が発生した場合
  - （3）東南海、南海地域に大規模な地震が発生した場合
  - （4）津波注意報、気象警報（大雨、洪水、暴風、高潮）が発表された場合
  - （5）雷注意報の発表かつ雷鳴など落雷兆候がみられた場合
  - （6）市民の健康及び財産の被害が予想されると判断される場合
  - （7）その他社会的に中止が必要と判断される場合※中止が妥当と判断した場合は、訓練当日の午前7時00分までに中止を判断する。
- 6 その他
  - （1）海面の要救助者及び、静岡県防災ヘリコプターが救出する要救助者は焼津市職員が担当する。
  - （2）会場に訓練本部を設置し、無人航空機で撮影した映像をモニターに映す。
  - （3）訓練参加機関、自主防災会及び静岡県中部地域局の代表者に訓練の視察を案内する。



令和7年度 焼津市水難救助訓練  
訓練イメージ図



避難場所

津波避難タワー  
公共北野積場1号  
9,281㎡

飯 淵

公共北荷捌地2号  
8,873㎡

駐車場

WC

見学者

訓練本部

上屋

飛行場外  
離着陸場

公共北岸壁1号 (-5.5) ; 公共北岸壁2号 (-5.5)

公共北岸壁3号 (-7.5)

公共北岸壁4号 (-7.5)

公共東荷捌地1号  
7,944㎡  
3.2

訓練本部配置図



## 《資料写真》過去の焼津市水難救助訓練の様子

無人航空機による情報収集



水上バイクによる救助



ヘリコプターによる救出



巡視艇による救助



訓練本部の様子

